

なきごえ



1979

7

大阪市
天王寺動物園協会

ごあいさつ

猛暑厳しき折、皆様にはご壮健のことと心よりお喜び申し上げます。平素は動物園運営のため何かとご協力賜わり誠にありがとうございます。

この度、5月23日、橋本、宮下、野口、そして通訳の富田女史の4名で、大阪・上海友好都市提携5周年記念事業の一環として、キリン一番を上海市へ輸送、上海、広州、北京の各都市の動物園を見学して、6月6日帰阪致しました。

不在中、中川先生は、無事定年退官され、不肖、私その後任として、大命を拝受致しました。この間多事多忙のため、各方面のご先輩諸先生方へのご報告、ご挨拶もままならぬままに今日に至っています。この事情をご推察の上お許しを賜りますようこの紙面をおかりしてお願い申し上げます。

私、園長に就任し、今更ながら、この職の重みを痛い程、ひしひしと全身に感じております。しかし幸いなことに、86名の職員は、この職場を守り続ける決意と、この職場の将来への希望は、脈々と引きつがれ、1日も乱れなく、各人各人の持場、職場において、脈動している有様を、今更ながらに目の当りに感じ、私に大きな力と勇気を与えてくれました。私は涙の出る思いで喜び、且つ、やらねばならぬ決意を新たに致した次第でございます。

天王寺動物園は、今年創立64年になります。その間市民の皆様のご愛顧に依りまして、市民と共に歩み続けて参りました。しかし動物園の運営については、時代の移り変わりとともに色々な形で改善拡充され、今日の近代的な動物園に発展して参りました。

近年、高度成長と自然破壊の反省がとみに強く、自然に対する見なおしと愛着は、人間本来の姿だと存じます。あらゆる生物の生命保護、自然野生動物の保護をしなければならないこととして、人類は、大昔から守って参りました。しかし、機械文明の発達と産業エゴによって、乱獲と無意の殺戮をくり返し、その反省が、今叫ばれるのは当然だと思います。

なきごえ7月号もくじ

ごあいさつ(橋本園長)	2
“タンチョウの親子”	3
動物園グラファー-中国の珍貴動物-	4・5
中国見聞記	6・7・8・9・10
動物園ニュース	11

私達、現在の人間は、子孫のためこの地球上の生命を絶やさないように、人類を絶滅させない為にも、バランスの取れた調和のある世界、地球を作らなければなりません。調和、バランスと云うことは、生物の進化・発展と安定にかかせない自然の法則が含まれています。安定しないもの、バランスの取れないものは、生物界では、必ず滅びてしまいます。

この自然の見なおし運動の一環としての動物園の役割は、たいへん大きいものがあります。

人は誰でも一生に3度は必ず動物園をおとづれると云われていますが、その理由も、そのへんにあるように思われます。自然を離れた環境での都市生活者の自然への郷愁は当然だと存じます。

今後の動物園の有り方として、中川先輩が常に申されました“みどりや花のいっぱいある動物園”は勿論、引きつがねなければなりません。それに加え、動物達が安心して、動物の赤ちゃんが沢山生まれ、孫が育つ様な環境の動物園造りと、入園者のマナーとして、本当に正しい動物の知識を吸収し、動物に接する心を養う場になってほしいと思っています。

そういった意味で、今後のボランティアの皆様を期待しています。市民活動の中に動物園ボランティア活動をおおいに期待したいと思っています。

現在の天王寺動物園のボランティア活動は、小学生を対象とした教育活動に限定した活動をして頂いていますが、今後の方向としては、色々な方向に、自主的な市民活動として、参加されて行くべきものだと私は考えています。勿論、都市公園の一環として、特異な施設として、ユニークな運営をお願い申し上げたいと思っています。

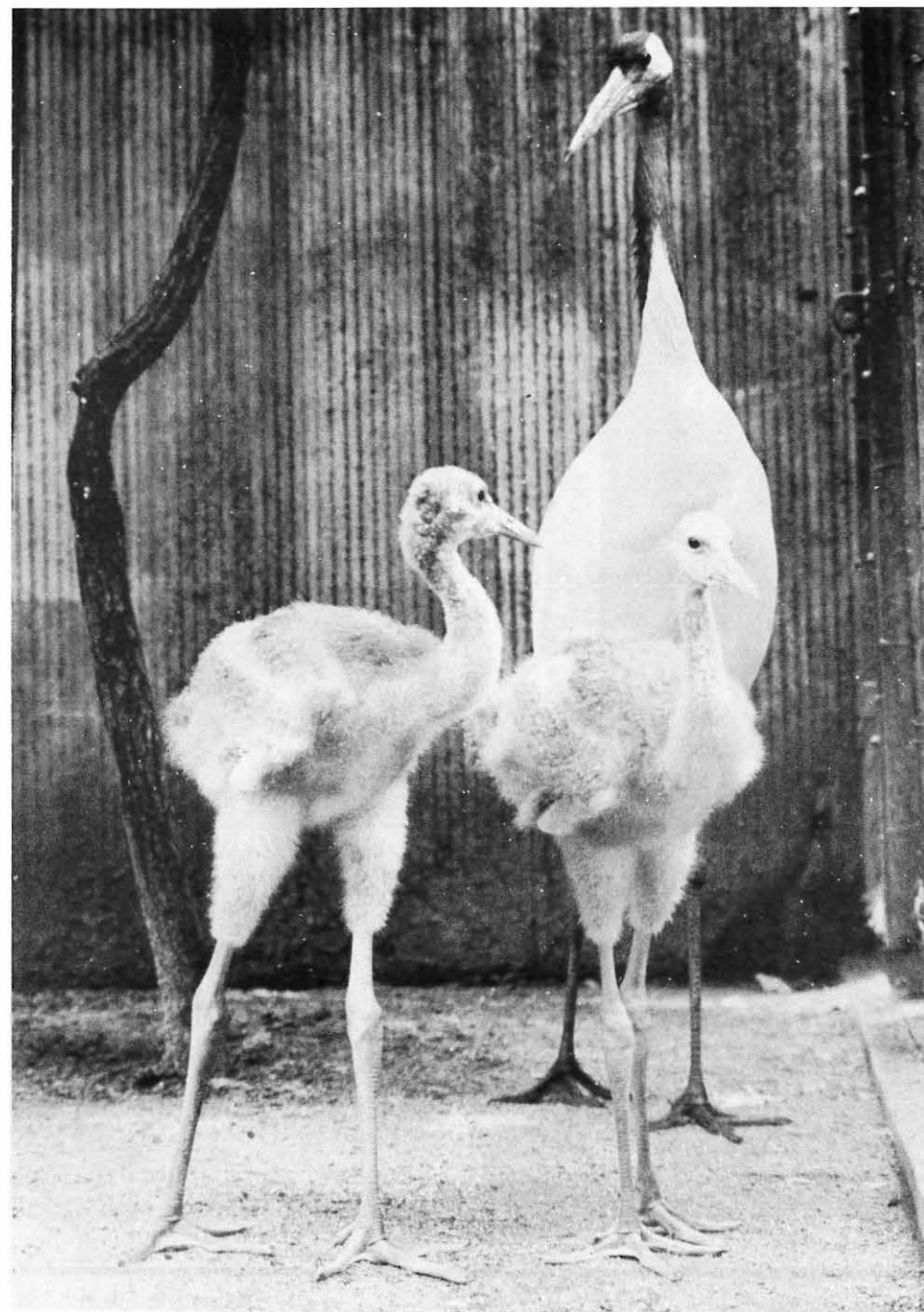
なお、内部体制も充実し、土井飼育課長、中川主査が新たに加わり、今後のお二人のご活躍を期待したいと存じます。私共々、ご指導ご鞭撻を賜わらんことをお願い申し上げます。

(天王寺動物園々長：橋本 一郎)

表紙の写真説明

“コウノトリ”

昨年11月に上海市西郊公園から贈られたコウノトリで、日本産コウノトリが1羽だけになってしまった現在、なんとかしてこのコウノトリの繁殖を成功させたいものです。(撮影：宮下 実)



“タンチョウの親子”

6月3日・4日にそれぞれ1羽ずつヒナが誕生しました。ふ化日数は共に30日で、当園ではこれで4年連続の繁殖成功で、7羽のヒナが誕生しました

(撮影：長瀬 健二郎)

動物園グラフ

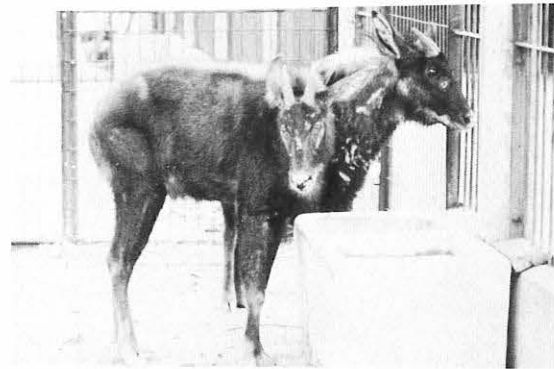
“中国珍貴動物”

中国産の珍しい動物をグラフで特集してみました。〔()内は動物園名〕

(撮影：宮下 実)



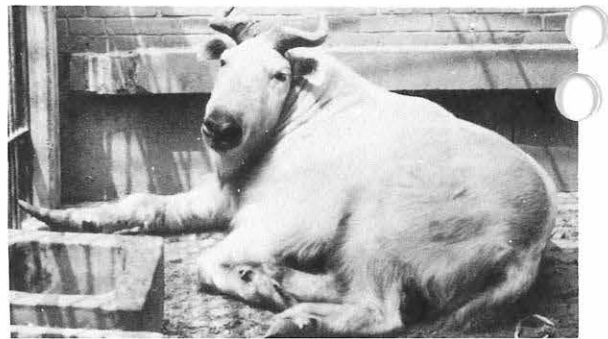
キンシコウ (上海)



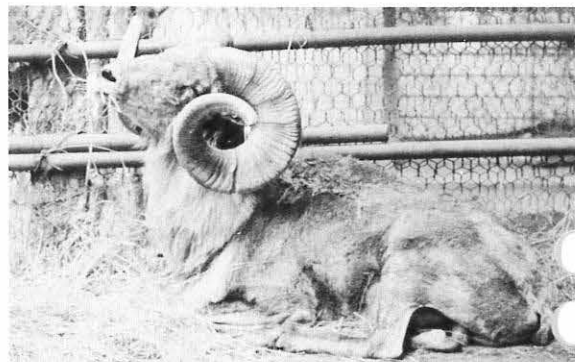
スマトラカモシカ (北京)



コウジョウセンガゼル (北京)



ターキン (北京)



アルガリ (北京)



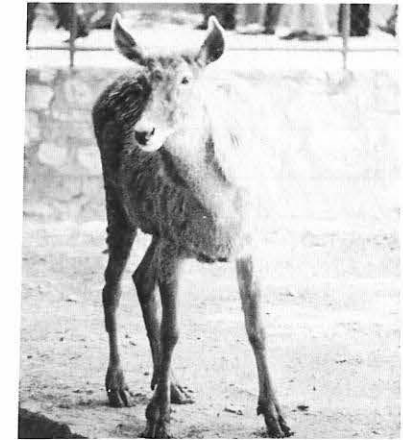
フタコブラクダ野生種 (北京)



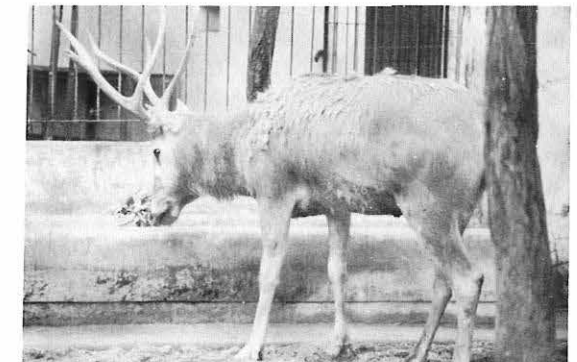
マエガミジカ (上海)



ジャイアントパンダ (上海)



クチジロジカ (上海)



シフゾウ (広州)

5・6月の動物日記

- 5/24. 冷房ペンギン舎が今日から運転を開始しました。キング、イワトビ、マカロニペンギンを外から冷房舎へ収容しました。
25. ヤギの後肢の擦過傷を治してあげました。
27. ホンドキツネの左足が化膿してきたので、断脚術を施しました。
30. レアが第1卵を産卵しました。
以前より食欲不振で元気がなかったヌクテ

のメスが痙攣をおこしたので入院させて治療を始めました。

31. ヌクテは昏睡状態が続いているため、点滴を続けています。
- 6/3. タンチョウが孵化しました。
ニホンザルが負傷したので入院させました。
- 6/4. 昨日に引き続き、タンチョウが孵化しました。
白色オカメインコが脱肛をおこしたので治療しました。
トカラヤギにシラミが寄生しているので薬

浴をさせました。

7. 去年の11月に保護したオオミズナギドリが残念ながら死亡しました。7ヶ月生存しました。
10. アシカの今年第2号の赤ちゃんが誕生しました。
13. レアが2卵目を産卵しました。
16. ブラックバックが出産しました。
17. ゴシキセイガイインコ2羽の寄贈がありました。
18. モウコレイヨウがメスの赤ちゃんを生みま

した。

20. スーティマンガベイ♂♀が入園しました。コヨーテの赤ちゃん4頭が出園しました。
21. ラマがメスの赤ちゃんを出産しました。初産なので心配しましたが、順調にいきます。
22. ニホンツキノワグマの赤ちゃんが熱射病になり心配しましたが、治療のかいあって夕方には回復しました。
23. カササギ1羽の寄贈がありました。

中国見聞録

—上海・広州・北京の各動物園を見学して—

大阪—上海友好都市提携5周年を記念して第3次動物交換が行われました。上海市からは昨年11月にコウノトリ1番いがすでに贈られて来ており、大阪市からはキリン1番いを5月末に贈りました。このキリンの輸送に随行して当園から橋本一郎園長、キ

§ 第3次動物交換

昭和49年、大阪市と上海市が友好都市提携をして以来、今回が3度目の動物交換で、その交換動物は下記の通りです。

年、月(次)	大阪市⇒上海市	上海市⇒大阪市
昭和49年8月(第1次)	カリフォルニアアシカ 2頭 ペンホルトペンギン 4羽	クロオオカミ 2頭 マナヅル 2羽
昭和52年11月(第2次)	チンパンジー 2頭	ベニジュケイ 4羽
昭和53年11月(第3次) 54年5月	アミメキリン 2頭	コウノトリ 2羽

§ キリンの輸送 大阪⇒上海

5月23日午後1時、尼崎港に停泊中の中国船清水号の輸送艦に入れられた2頭のキリンが積みこまれました。この出港に至るまでは輸送船がなかなか決まらず、予定がめまぐるしく変わる毎日、随行する我々も出発の準備、キリンの検疫、輸送手続などで落ち着かない毎日でした。公園局の方々や動物園関係者の見送りをうけて4時に尼崎港を出港、船室に荷物を置くとすぐにキリンの観察を開始しました。1週間の動物検疫もやっと終わったと思ったら、又、檻に入れられてトラックで運ばれ、それも束の間、今度は船に乗せられてと、息つくひまもないめまぐるしい変化にキリンも疲れたことと思います。この2頭の内オスは昭和53年3月に宮崎サファリパークで生まれた個体で愛称長助、メスは同年1月にみさき公園で生まれ、チャドと名付けられていました。長助はわりと人なつっこく、落ち着きがありますが、チャドの方は少し神経質なようで不安気です。出港して間もなく、一旦食べた物をもう一度口の中にもどして食べ直しをする反芻という動きも認められたので、まずは一安心。

この反芻をしないと体の調子が悪いと考えられるだけに、まずは1つの不安が消えたわけです。後は採食状況、排便、排尿が良好ならキリンも元気に中国の土を踏めるでしょうし、我々も枕を高くして寝られるというものです。

そうした心配を吹きとばすかのように、長助もチャドも乗船後、



天井を取りはらって伸びをする長助

リン飼育担当の野口秀高係員、通訳を委託した富田和子さん、それに私の計4人で中国を訪れ、動物園の見学を主体に、技術交流及び両国間の友好を深めて参りましたので、キリン輸送の過程からの中国見たまま、聞いたままを御紹介しましょう。

初めて与えた餌(メニュー: キヤベツ、ジャガイモ、ニンジン、ヘイキューブ、切干草、固型飼料、フスマ、食塩)をうまそうに食べ始め、夜の10時にはコロコロした粒状の糞便も認められました。

翌24日、昨日とはうってかわって、チャドの方は落ち着きを取り戻したのに、長助の方は何となく疲れた感じで、檻の側板に体をもたせかけたりして元気がありません。その上、角が檻の天井に当たるため、すり傷を作って少し出血もしています。時間がたつにつれ、長助はますます苦しそうなる様子を示すため、午後から思いきって檻の天井をはがすことにしました。よほどきゅう屈だったので、つかえていた天井が取りはらわれると、首を思う存分伸ばし、気分もよさそうに周囲に見える海を眺めました。この後は、長助もチャドも採食、飲水、排便共に異常なく、我々の方も助かりました。清水号の船員の方々は皆、非常に親切で、キリンのために4時間おきの臨時当直を巡視させたり、我々のために夕食会を開いてくれたりと、あたたかい心づかいを感じました。

出港後約60時間、5月26日午前5時に上海港に到着しました。予定では昼前に到着と聞いていたので、到着した時は全くの熟睡中。ドアを激しくたたき音に何か異変もあったのかと、はね起きました。目をこすりながらデッキに出ると、岸壁には100人ほどの人が並び、我々を待ち受けているのにはビックリ!あわてて着替えをして出迎えの歓迎陣にあいさつをしました。船内に乗りこんでこられた出迎えの方々の中には、昨年当園に来られた西郊公園々長の趙沛さんや飼育主任の顧文儀さんの顔も見え、再会を喜びあいました。

§ 上海にて

上陸後、キリンの積みおろしはおまかせして、我々は上海滞在中の宿泊先である錦江飯店へと向かいました。朝早く起こされたのと、ものすごい歓迎陣に少し頭がぼーとした感じで、中国に着いたという実感は全然わきませんでした。朝食後、私も野口さんも安心して疲れがどっと出たのか、2時間ほどぐっすり眠りました。10時に上海市側から趙園長、それから我々が中国を旅行する間、全行程付き添って頂く、外事弁公室の朱剣香さん、園林局技術幹部で通訳の任にあられる湯豊祥さんの3名が来られ、上海での日程の打ち合わせをしました。我々の希望は名所旧跡よりも、とにかく動物園をすみからすみまで何回でも見学したいということで、お願いしま

午後、まずはキリンの状況見学ということで西郊公園へと向かいました。市の中心から車で20分ほどかかるこの動物園は、その名のとおりの西方郊外にあり、プラタナスの街路樹の植わった広い道路で結ばれています。きれいな町並ですが、道路は人と自転車で一杯で、その中をけたたましくクラクションをならしながら自動車車が突っ走るわけですから、そここのけそこのけ車が通る...といった感じで、車内の我々は何か申訳けないような気がしました。

2時前に西郊公園に到着し、さっそくキリンを見に行きました。長い船旅の疲れも見せず、きれいなキリン舎の放飼場の一部で餌を食べていました。このキリン舎には26年も飼育しているマサイキリンが1頭おり、この動物園の主みたいな感じで貫禄十分でした。キリン舎の寝室は天井も高く、冬の暖房用にスチームも配管してあり、明るく清潔な建物で、放飼場も青草がおい茂ったグラウンドに、日陰用の大きな樹木も植えてあり、申し分のない環境です。5年ほどすれば、きっとⅡ世が誕生してくれることでしょう。

この後、市内へ戻り少年宮を見学しました。少年宮というのは7~17才の少年少女を対象とした一種の課外活動をする教育の場といったもので、小・中学校から選びぬかれた子供たちが、各自の才能を十分に伸ばしていくために放課後ここで活動するものです。刺しゅう、模型工作、粘土工芸、絵画、合奏など多種類の活動分野があり、それに一生懸命取り組んでいる子供たちを見ていると、中国の将来は大躍進が約束されているような気がしました。日本の子供が試験のために勉強に追われている姿に比べ、なんといきいきしていることでしょう。大変うらやましい教育の場です。夜は上海劇場で上海舞踊団のバレエや民族舞踊を見学しました。1万2千人も収容できるこの劇場は満員の盛況でした。

翌5月27日、待望の動物園見学の日、勇んでホテルを出発しました。西郊公園は折から日曜日のことなので、70haもある広い園内には入園者が続々入って来ていました。年間500万人もの入園者があるそうで、身長120cm以



西郊公園に到着した長助とチャド

下の子供は無料とのこと。哺乳類89種、鳥類183種を収容しており、中国を代表する動物園の1つといえそうです。趙園長を始め陳克立副園長や飼育関係の方々の案内で、さっそく見学を開始しました。まず気がついたことは動物に関する説明板の多いことです。中国珍貴動物と描かれた大きな看板には中国産の珍しい約120種の動物が地図に分布を示してあり、その横には特産の珍しいジャイアントパンダやシフゾウ、ターキンなどのカラー写真や、世界の代表動物の写真なども展示してあり、当園にはこの種の説明はないだけに必要性を痛感しました。入園者が多いわりには動物舎の間隔をおいて建てているため、ゆったりと動物を見学でき、又、大きな樹木が天然の日陰を作り、動物にも入園者にも快適な感じでした。公園の中央には大きな池があり、ペリカンや水鳥が放飼されていましたが、池の中央にある島では丁度ペリカンが抱卵中で、毎年、数羽のヒナがかえっているとのこと、ペ



ターキン



リカンの繁殖は世界的にも珍しいだけに驚きました。新しく近代的な動物舎も数多く建ち並び、類人猿舎やキリン舎、パン

ダ舎などは動物も見やすく、すばらしい建物でした。半面、オオカミやドール、マヌルネコなどの小・中獣類の建物は運動場も狭く、今一つといったところでした。ここでは待望のキンシコウやターキン、マエガミジカ、ジャイアントパンダ、クチジロジカなども見学でき、時間に余裕さえあれば1日中でも動物を見続けたかったほどです。

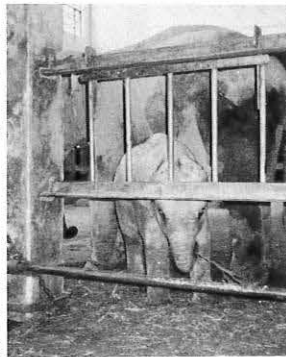
類人猿舎は最近完成したもので、モダンな動物舎と円形の広い放飼場があり、ここには当園から贈った2頭のチンパンジーが飼育されていました。担当の係員がこの2頭をつけて放飼場に現われると、周囲は入園者でうずまり、我々も身のり出さなければよく見えないほどでした。テーブ



類人猿舎

ルマナーや鉄棒遊びなどを披露して入園者から盛んな声援をおくられていました。放飼場の中央には大きなプラタナスが植えられており、この木に登って遊んだり、枝を折ったりと腕白ぶりも見せてくれました。木の上方にはその折った枝を集めて巣らしいものを作っていました。チンパンジーの生態を真に生かされる点で、このような本物の樹木の価値に感じました。園内は広いだけにゆったりと見学できるのですが、入園者の多いわりには休憩場所やベンチが少なく、入園者に対するこの点の配慮が望まれます。

ゾウ舎は寝室も放飼場も広く、昨年生まれたアジアゾウの赤ちゃんも1頭いました。両親は共に野生のものを捕獲してきたものらしく、中国ではゾウの出産はさほど珍しくないとのこと。日本ではオスゾウの危険性が高いことからオスを収容している動物園は少なく——当園もメス3頭だけ——日本での繁殖例は未だなく、うらやましい限りです。



アジアゾウの赤ちゃん

午後からは上海市自然史博物館を訪れました。この博物館は展示の質、量とも素晴らしいもので、特に無脊椎動物から魚類、両性類、ハ虫類、鳥類、哺乳類に至るまで、はく製、骨格標本など素晴らしい展示内容で、私もその膨大なコレクションには圧倒されました。

夜は上海雑技団の演技を見学しました。サーカスと同じですが、ここの目玉は何といてもジャイアントパンダの曲芸です。このパンダは趙園長が野生動物捕獲隊を組織して四川省で捕えてきたものらしく、中国の人たちもやはりこれがお目当てのようで、パンダが登場すると場内は拍手と笑いの渦！前転、スベリ台、樽まわし、最後は犬の引く車に乗ってラッパを一吹き。3分ほどの短い時間でしたが、野生や飼育下では見られない調教ぶりを楽しませて頂きました。



演技中のパンダ

5月28日、午前中は上海市植物園を見学、午後は上海市植物園を見学、午後は4時から行われるキリンの贈呈式まで多少の時間の余裕ができましたので、野口さんと上海市内を歩いて見学しました。途中、

書店で動物関係や獣医学関係の本をさがしましたが、まだこの種の書物は数が少いようで、数冊見つけて買い求めました。お菓子屋、雑貨屋、文房具屋、食堂……と店々をのぞきまわり、筆談や身ぶり手ぶりで話をして、中国の実際にふれたという感じで楽しい時間を過ごしました。

4時から西郊公園のキリン舎前でキリンの贈呈式を行いました。上海市革命委員会副主任の揚心培氏を始め上海市のそうそうたるメンバーが出席され、又、キリン舎の前には100人ほどの市民の方が待ち受けられて、熱烈な歓迎と友好ムードの内に無事贈呈式を終えました。夜は革命委員会主催のレセプションパーティが催され、乾杯、乾杯の連続で、私も調子をあわせて少々マオタイを飲みすぎてしまいました。明日の二日酔いが心配です。

5月29日、午前中は西郊公園で技術交流を行いました。約20名ほどの獣医、飼育係員出席のもと、キリンの飼育、繁殖、動物の雑居、動物学的獣医学的研究、動物の展示、説明、教育普及……いろいろなことについて熱心に話合いましたが、通訳を介しての話のためにどうしても時間が倍かかってしまうわけで、約3時間の技術交流では話つくせなかったことも多く、少し残念でした。

午後からは中国では珍しくなった玉仏禅寺というお寺へ。仏教の信者は非常に少なくなってきているとのこと。その後、美術工芸研究所へ。刺しゅう、彫刻、造花など手先の巧みさには驚かされました。

5月30日、この日も他にスケジュールが組まれていましたが、我々のぜひ動物園見学をしたいという希望をくんで頂き、11時前から西郊公園へ。もう一度見たかった動物、見おとしていた動物、動物病院、調理場……短い時間を有効に利用して精力的に園内を駆け巡りました。

5時過ぎの広州行の飛行機に乗るため、空港へ。6月6日に再度、上海に戻って来るまでのしばらくのお別れです。

§ 広州にて

広州は亜熱帯に属するようで、かなり暑いと聞いていましたが、夜7時半に到着した時は雨模様で、多少むし暑いという感じでした。空港には広州市園林局長の周大珠さんと広州動物園々長の黄卓各さんが迎えに来られていました。宿舎となる東方賓館は有名な広州貿易展覧会場の前にある大きなホテルでした。

翌5月31日、一日中動物園見学ということで、朝から動物園へと向かいました。曇り空で時々小雨のパラつくなか、黄園長の案内で園内見学を開始しました。1958年に開園したこの動物園は山の斜面を利用し、熱帯植物が茂る中に動物舎が散在し、素晴らしい環境です。面積33haの中には哺乳類91種、鳥類107種、ハ虫類20種を収容し、中国の代表的動物園の一つです。動物舎にもいろいろ工夫がされており、

ライオンやトラ舎の寝室は湿度の高い気候を考慮して通風をよくする配慮がはらわれており、又、放飼場に



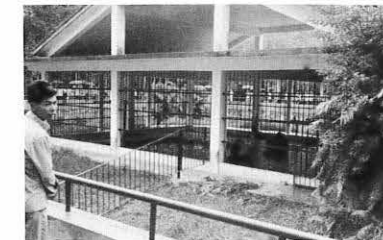
カバ舎

ある一見本物に見える岩は、全てセメントで作った凝岩とのこと。最近完成したカバ舎も凝岩と植物がうまく調和したすばらしい動物舎でした。ただカバが日光浴をするための陸地の部分がないのが気になりました。アジアゾウもすでに3回も出産しているとのこと、6tほどもある大きなオスもよく馴致されていました。



ゾウ舎

ジャイアントパンダ舎も、屋根には芝生を植えてあり、午後から天気の良い日には、このグリーンベ



パンダ舎

ッドで昼寝をするようですが、あいにく食事の際中で見れません。ヘラジカ、シフゾウなどの珍しいシカや、ゴールル、パーラル、スマトラカモシカ、リーチェなどの珍しいカモシカ類も展示されていました。

昼からも園内見学の予定でしたが、熱帯特有のスコールでカサをさしても歩けないほどのどしゃ降りのため、見学はあきらめて飼育、繁殖、獣医臨床関係の技術交流を行いました。



熱帯植物おい茂るシマウマ舎

翌6月1日、昨日の雨がうらめしくなるほどの快晴で、広州から25kmほど郊外の佛山に行き、佛山祖廟や陶器工場を見学しました。夜は広州市園林局の主催で宴会を催していただき、動物園のことや広州市のことなどいろいろな話をうかがわせて頂きました。

た。6月2日は広州市内の主要な公園見学ということで、市内を一望に見渡せる白雲山や山化公園、蘭圃、西苑、越秀公園などをかなりハードなスケジュールで見えてまわりました。

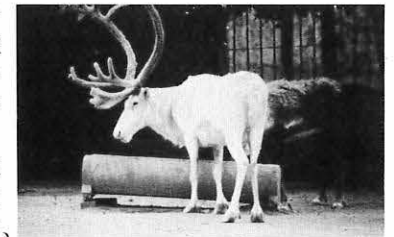
夜、7時発の飛行機で北京へと向かいましたが、機内では中国での見たこと聞いたことをまとめるのに追われ、約3時間の空の旅も、あっというまでした。

§ 北京にて

夜10時前、北京空港に到着、北京動物園副園長の堵宏章さん始め、3名の方が迎えに来られており、日程打ち合わせの後、宿泊先の前門飯店へと向かいました。北京はさすがに中国の首都だけに道路もよく整備されており、近代的な大きな建物も多く目につきました。翌6月3日は北京市園林局の方々の案内で、午前中は天安門、故宮などを見学し、午後は頤和園を見学しました。このような昔の史跡をよく保存し、市民の憩いの場として利用しているのは、すばらしいことです。

6月4日、北京動物園見学の日ですが、曇り空で雨が心配されました。この動物園の前身は清の時代の1906年に設立されたもので、当時は面積も1.5haと小規模だったようです。解放後の1949年、56haに拡張し、現在、動物は480種3,000点を収容し、年間入場者も約800万人と、中国を代表する動物園となったわけですね。この園でも中国特産の動物展示に力を入れており、約60%を占めるそうです。当園とは昭和49年に動物交換を行い、当園からはアカカンガルー1番い、ルリコンゴウインコ4羽を贈り、北京からはタンチョウ1羽、モウコガゼル1番いが贈られています。帰国後知ったことですが、奇しくもこの日、当園ではこの贈られたタンチョウの7羽目のヒナが誕生していました。

園内は収容種類も多いだけに動物舎もわりと建てこんだ感じですが、無柵放飼式も多く取り入れ、特にクマの放飼場は非常に広く、ヒグマ、ヒマラヤグマ、ホッキョクグマが収容されていました。ホッキョクグマはすでに数頭繁殖に成功しているとのことでした。トラ、ライオンの猛獣舎も非常に立派なもので、特に寝室を見学できる観覧室は大きな建物でした。ただ寝室が全て入園者から見えるのはよいのですが、出産や病獣のための隔離室がない点、及び二重扉のない構造などが気になりました。



トナカイの白色種

ここには珍しい草食獣も多く、ターキン、スマトラカモシカ、パーラル、ゴールル、アルガリ、フサ

ルマ
な
き
遊
ん
だ
もの
に
生
に
展
き
べ
れ
ま
、
場
も
た
っ
て
も
親
い
捕
獲
う
出
る
い
オ
キ
容
く
だ
の
に
乳
展
き
と
ン
動
う
もの
場
笑
べ
後
て
分
た
は
を
た
上
野

ミミオリックス、コウジヨウセンガゼル、フタコブラクダの野生種、クチジロジカ、チベットノロバ…。少々寝不足でボヤッとしていた頭



ゴール

ゾウ舎ではアジアゾウとアフリカゾウと一緒に飼育しており、アジアゾウはここでもやはり繁殖していました。海獣館にはメキシコより贈られたマナティガ2頭飼育されており、その特徴ある姿を呼吸の際に浮かびあがって来た一瞬、かいま見ることができました。ジャイアントパンダ舎では3頭のパンダを見れ

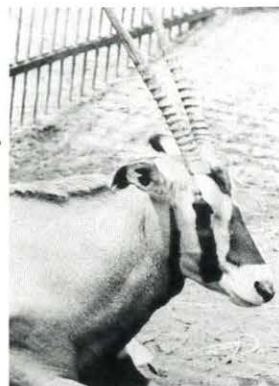


オグロツル

バーラル

も動物を見ているうちに冴えわたり、ついには多くの珍獣と御対面のあまり、ハシタナクも興奮してしまいました。

世界には14種のツルがいますが、ここには11種のツルを収容しているようで、全て見れなかったのは残念でしたが、中国特産のオグロツル（中国名ではクロクビツル）を近くで見れたのは幸いでした。



フサミミオリックス

ましたが、放飼場にあった1頭が昨年9月に人工授精で生まれた第1号とのことで、愛くるしい姿で入園者に愛嬌をふりまいていました。人工授精は興味があったので詳細を書きとめました。近々報告集が出るとのことでした。

ハ虫類館は8月完成を目ざして工事中で、ほぼ完成した内部を見学させてもらいましたが、90種も収容室があ

り、大きいだけでなく設備や環境づくりにもいろいろ工夫がこらされ、完成のあかつきには世界でも有数のハ虫類館となることでしょう。

動物病院は3年前に完成したという2階建の大きな建物で、14名の獣医が細菌病理、臨床などの分野に分かれて研究活動されているようで、スタッフ、設備共よく整ってうらやましい限りでした。



人工授精第1号のパンダ元晶



ハ虫類館

夜は園林局主催の宴会を催していただき、中国の民話なども教えていただきました。翌5日、マイクロバスにお弁当を積みこんで、中国に来たら是非見なければという万里の長城へと向かいました。車で約1時間半、6000km以上もある長城の登り口に到着しました。老朽化して随所で崩壊しているため、左に800m、右に600m歩くと終点ですが、起伏が激しく、両方登る人はめったにいないそうですが、私と野口さんは若さ？にものをいわせて両方行きました。その後、明時代の皇帝の墓である明の十三陵へ向かい定陵を見学しました。4時に北京へ戻り、市内見学の後、夜、全行程、付き添って御世話頂いた朱さん、湯さんに感謝の意をこめて我々でささやかなパーティを催しました。

翌6月6日早朝、北京より飛行機で上海へと向かい、西郊公園でお別れの昼食会の後、上海空港より大阪へと帰国の途につきました。

中国の皆様には船中に始まって上海、広州、北京と、各所で筆舌に尽くしがたいお世話を頂き、誠にありがとうございました。この誌面を借りまして我々の感謝の意を表したいと存じます。これを機に、技術交流、友好を更に深め、各動物園の一層の発展を願います。

(飼育課獣医師：宮下 実)

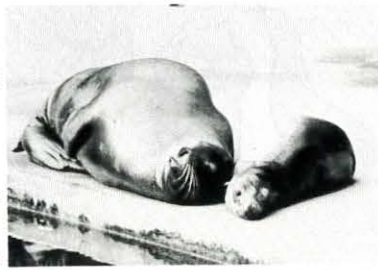
§ スーティーマンガベール入園

6月20日、スーティーマンガベールのペアが入園しました。オス、メスともまだ2才位の子供です。このサルは中央アフリカに住んでいて、うすいグレーの毛が特徴的です。現在、獣医室で検疫中ですが、この号が出るころにはサルアパートでかわいい姿を御覧いただけたと思います。

§ 出産ラッシュ開幕!!

暑い季節を迎え、動物園では本格的な出産ラッシュが始まりました。

まず、5月22日、南園のアシカが産しました。6月10日にもう1頭生まれ、アシカの仔は2頭になりました。両方共



お母さんのミルクをたっぷり飲んでとても元気です。5月1日と4日に産卵されたタンチョウの卵が6月3日、4日と連続して孵化しました。4年連続で



孵化した上、過去4年間で産卵された卵はすべて有精卵で孵化するという記録的な快挙で

動物園ニュース

6月18日には同じカモシカ園でモウコガゼルの仔が誕生しました。両親は昭和49年9月に北京動物園から親善動物交換で



送られてきたもので、世界の動物園を見ても北京の1頭と当園の4頭しかいない非常に珍しいガゼルです。一昨年の8月に世界で初めて出産に成功し、話題を集めました。今回の出産はこれに続き2度目の出産です。今度の仔もメスでした。先に生まれたお姉さんの方も来年あたり、そろそろおめでたがありそうですので、順調に行けば、当園でモウコガゼルの一大コロニーが出来そうです。

6月21日にはラマが産しました。お母さんのメリーは昭和52年11月3日生まれですので、生後約1才7ヶ月半で産したことになると思います。初産にもかかわらずメリーはとても落ち着いて、よく子の面倒を見ています。この子もメスでした。

入園ご案内

1. 開園時間

3月～10月 午前9時30分～午後5時

くらしを彩るショッピング



近鉄百貨店

アベノ店 (06) 624-1111・上本町店 (06) 779-1231
東京近鉄 (0422) 21-3331

・近鉄百貨店グループ

大阪(アベノ・上本町)・東大阪・奈良・京都・岐阜
枚方・四日市・和歌山・徳山・別府・東京(吉祥寺)

ミミオリックス、コウジョウウセンガゼル、フタコブラクダの野生種、クチジロジカ、チベットノロバ…。少々寝不足でボヤッとしていた頭



バーラル

も動物を見ているうちに冴えわたり、ついには多くの珍獣と御対面のあまり、ハシタナクも興奮してしまいました。

世界には14種のツルがいますが、ここには11種のツルを収容しているようで、全て見れなかったのは残念でしたが、中国特産のオグロツル（中国名ではクロクビヅル）を近くで見れたのは幸いでした。



ゴール

ゾウ舎ではアジアゾウとアフリカゾウを一

り、大きいだけでなく設備や環境づくりにもいろいろ工夫がこらされ、完成のあかつきには世界でも有数のハ虫類館となることでしょう。

動物病院は3年前に完成したという2階建の大きな建物で、14名の獣医が細菌病理、臨床などの分野に分かれて研究活動されているようで、スタッフ、設備共よく整ってうらやましい限りでした。



人工授精第1号のパンダ元晶



ハ虫類館

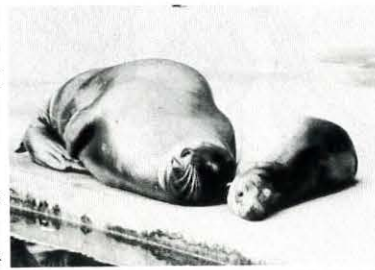
§ スーティーマンガベール入園

6月20日、スーティーマンガベールのペアが入園しました。オス、メスともまだ2才位の子供です。このサルは中央アフリカに住んでいて、うすいグレーの毛が特徴的です。現在、獣医室で検疫中ですが、この号が出るころにはサルアパートでかわいい姿を御覧いただけたと思います。

§ 出産ラッシュ開幕!!

暑い季節を迎え、動物園では本格的な出産ラッシュが始まりました。

まず、5月22日、南園のアシカが産しました。6月10日にもう1頭生まれ、アシカの仔は2頭になりました。両方共



お母さんのミルクをたっぷり飲んでとても元気です。

5月1日と4日に産卵されたタンチョウの卵が6月3日、4日と連続してフ化しました。4年連続で



フ化した上、過去4年間で産卵された卵はすべて有精卵でフ化するという記録的な快挙です。これでタンチョウ一家は総勢9羽という大所帯になりました。フ化日数は31日と33日でした。

5月23日には南園のニホンジカ舎で仔鹿が1頭生まれました。かわいいバンビは入園者

の人気の的になっています。

6月8日には今年3頭目のニホンザルの赤ちゃんが生まれました。まだお母さんに抱かれて、寝ているばかりですが、この号が出る頃にはお母さんから離れて遊ぶかわいい姿を御覧いただけたと思います。



同じく8日にはオグロワラビーの赤ん坊が袋から顔を出しました。あと2ヶ月もすれば袋から出て、飛び廻るようになると思います。

6月16日にはカモシカ園で2種の出産がありました。一方はブラックバックで、もう一方はハナジカです。2頭共とても元気な赤ん坊でした。

6月18日には同じカモシカ園でモウコガゼルの仔が誕生しました。両親は昭和49年9月に北京動物園から親善動物交換で送られてきたもので、世界の動物園を見ても北京の1頭と当園の4頭しかいない非常に珍しいガゼルです。一昨年の8月に世界で初めて出産に成功し、話題を集めました。今回の出産はこれに続き2度目の出産です。今度の仔もメスでした。先に生まれたお姉さんの方も来年あたり、そろそろおめでたがありそうですので、順調に行けば、当園でモウコガゼルの一大コロニーが出来そうです。



6月21日にはラマが産しました。お母さんのメリーは昭和52年11月3日生まれです。生後約1才7ヶ月半で産したことになる。初産にもかかわらずメリーはとても落ち着いて、よく子の面倒を見ています。この子もメスでした。

入園ご案内

1. 開園時間

3月～10月 午前9時30分～午後5時
11月～2月 午前9時30分～午後4時30分
閉園30分前で入園券の発売を終わります。

2. 休園日

毎月第3月曜日は休園日です。9月までの休園日は下記の通りです。
7月16日、8月20日、9月16日

3. 入園料

普通—大人（高校生以上）	200円
団体 30人以上	180円
50人以上	160円
100人以上	140円

4. 駐車場使用料

バス1台2時間まで1,000円（1時間超過毎500円）
乗用車1台2時間まで 500円（1時間超過毎250円）

5. うば車などの貸し出し

うば車1台 200円（保証料 300円）
手荷物預り 1個 200円

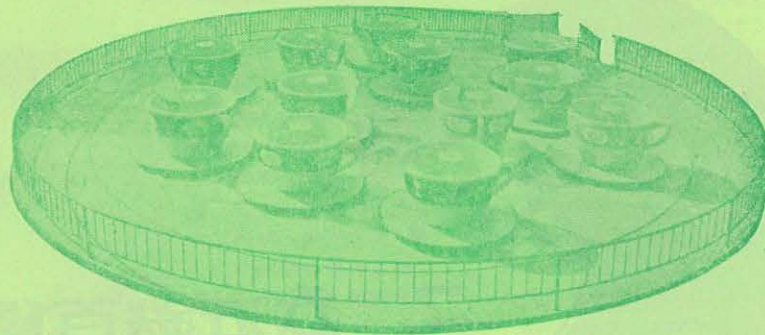
<お願い>

心ない入園者の与えるえきで多くの動物が病気になったり死んだりします。ことにお菓子を袋ごと与えるのは最も危険でビニールの袋はお腹にたまったまま消化せず、死の原因になります。

また、石を投げつけたり、棒でつつくなどのいたずらは絶対にやめてください。

一人一人の注意で、かわいい動物を一日でも長生きさせてやってください。

遊園施設委託経営・製作・販売



久竹娯楽株式会社

本社工場 大阪市西区北堀江1丁目23番21号
電話 大阪(06)541-3112・3938 番

なきごえ 昭和54年7月15日発行(毎月1回15日発行)

編集/大阪市天王寺動物園

発行人/大阪市天王寺動物園協会 和田辰巳

印刷所/株式会社 松村善進堂 定価100円(送料共)

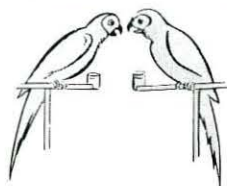
第15巻第7号(通巻167号)

〒543 大阪市天王寺区玉水町2

電話 大阪 (06)771-0201

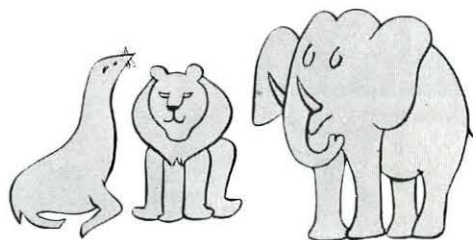
振替口座 大阪 37823

1年継続(12部)1,100円(送料共)



鳥獣輸入

全国動物園水族館御用達



- ・医学実験用動物
- ・愛玩犬、猫直輸入
- ・宣伝用、テレビ用、貸動物
- ・教材用鳥獣剥製販売
- ・原色世界雑類図鑑(34種1枚もの)要郵便券150円・鳥獣価格表100円

有限会社 吉川商会

本社 神戸市生田区中山手通三丁目二八番地 電話(078)221-8195・221-1517
 飼育場 神戸市葺合区神仙寺通三丁目一番地 電話(078)241-3494



自然の
おいしさ

全糖

- 合成甘味料・合成保存料・合成糊料・合成着色料はっさい含まれていません。



雪印ヨーグル

各130c.c.=90円

パイン・オレンジ・ストロベリー・フルーツカクテル

編集委員

板野 健一・前木 妙子・大野 尊信・榊原 安昭・樽本 勲・中川 道朗・高橋 真三・農本 武志
 石島 宏胤・野口 秀高・宮下 実・橋本 一郎・長瀬健二郎・三浦 正明・葭谷 文彦・仲谷 登